

除夜の鐘

108つの由来

除夜の鐘はほとんどのお寺では108回撞かれますが、この「108」という数の由来については、いくつかの節があります。しかしこれが正しいということはないようで一般的には煩惱説が有名です。なお、撞く回数は108回とは限らず「捨て鐘」と言って二つ余分につくお寺や撞く回数を108回と決めず、200以上撞く場合等があります。

1. 煩惱の数を表す

眼(げん)・耳(に)・鼻(び)・舌(ぜつ)・身(しん)・意(い)の六根のそれぞれに好(こう: 気持ちが好い)・悪(あく: 気持ちが悪い)・平(へい: どうでもよい)があつて18類、この18類それぞれに浄(じょう)・染(せん: きたない)の2類があつて36類、この36類を前世・今世・来世の三世に配当して108となり、人間の煩惱の数を表す。

2. 一年間を表す

月の数の12、二十四節気の数24、七十二候の数72を足した数が108となり、1年間を表す。

3. 四苦八苦を表す

四苦八苦を取り払うということで、 $4 \times 9 + 8 \times 9 = 108$ をかけたとも言われている。

作法

鐘を撞く前には鐘に向かって合掌する。

108回撞く寺院においては、多くが108回のうち107回は旧年(12月31日)のうちに撞き、残りの1回を新年(1月1日)に撞きます。

「新しい一年を煩惱に悩まされない様に」との願いを込める為に108回目を元旦に撞くようです。

しかし現在ではお寺によっていろいろ違いがあるようです。

有名な知恩院では、22時40分頃より1分に一回撞かれます。故に除夜には80回程撞く様です。

「除夜の鐘」は私たちの心の迷いである百八煩惱に由来し、百八回鐘を撞くことで往く年を反省し、来る年に希望を託して「除災招福」(じょさいしょうふく)を祈ります。

ただし、静岡県富士宮市の大石寺(たいせきじ)では例外的に年明けと同時に1つ目が撞かれる。
ウィキペディアより

【煩惱】『仏』人間の心身の苦しみを生みだす精神のはたらき。肉体や心の欲望、他者への怒り、仮の実在への執着など。「三毒」「九十八随眠」「百八煩惱」「八万四千煩惱」などと分類され、これらを仏道の修行によって消滅させることによって悟りを開く。

日本三大梵鐘とは、

「東大寺の鐘」、「方広寺の鐘」そしてNHK ゆく年くる年で有名な「知恩院の鐘」です。

全自動撞木(ぜんじどうしゅもく)

昨今は全自動鐘撞き機が、普及していますが成田山では人による手動で朝昼夕の3回門前町に時を告げています。全国には現在七万七千余のお寺がありますが、その内約1600余りのお寺が自動鐘撞き機を使用しているそうです。

お寺によっては参拝者が鐘を撞くことが出来ますが、成田山では参拝者が鐘を撞くことは出来ません。成田山の職員が決められた時間に撞いています。